

「麻しん(疑い)患者」の 診療体制について

麻しんは、まれに肺炎や脳炎等の重篤な合併症を起こす全身性ウイルス感染疾患です。基本再生産数(R0)は12~18と言われており、同一空間にいただけで感染する(空気感染)、感染力が非常に高い疾患です。



基本再生産数(R0):免疫がない人々の集団で、1人の感染者が平均何人に二次感染させるかを示した値 (風しん:6-7、インフルエンザ1-2)



診療時の留意事項(空気感染対策)



他の受診者と接触しないように配慮

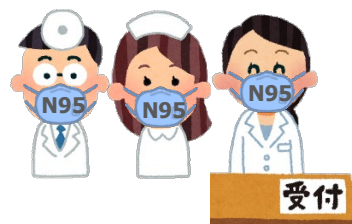
- ・別室(ダクトが別の部屋が望ましい)、可能な場合は陰圧室の確保
- ・受診時間の調整
- ・受診時の導線の確保(入口からの誘導経路、診察室、出口まで)



同じスタッフ、最小限の人数で対応

【対応するスタッフ】

- ※
・1歳以上で2回の予防接種記録がある
- ・麻しんり患歴がある
- ・麻しん抗体陽性が確認されている



感染リスク有

※予防接種歴は母子健康手帳等の「記録」で確認

接触者(健康観察対象者)

- **接触者のリストアップ**
- 緊急予防接種(曝露後72時間)の検討及び実施(接種不适当者除く)
- 接種不适当者は人免疫グロブリン投与(曝露後6日以内)の検討及び実施(抗体価の確認が必要)
- **3週間程度の健康観察**

平時の準備のお願い

- ☑ 全ての職員(事務職員等含む)リスト化 ※
予防接種歴・り患歴・抗体価等
- ☑ 院内マニュアルの作成
- ☑ 接触者への緊急ワクチン等の接種体制の確保

詳細についてはガイドライン等の参照を！(裏面)

問合せ先:平塚保健福祉事務所秦野センター保健予防課

電話:0463(82)1428(代)

参考情報

医療機関での麻疹対応ガイドライン(第七版)

(国立感染症研究所感染症疫学センター(平成30年5月))

出典: 国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイトホームページ

- I 平常時の対応
- II 麻疹患者発生時の対応・医療関連感染予防対策
- III 麻疹患者発生状況の継続的な把握と終息宣言 等



https://id-info.jihs.go.jp/relevant/vaccine/measles/040/medical_201805.pdf

医師による麻疹届出ガイドライン(第五版)

(国立感染症研究所感染症疫学センター(令和5年5月暫定修正中))

出典: 国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイトホームページ

- 1 はじめに ～麻疹のサーベイランスの概要～
- 2 届出の前に
- 3 届出票の記入方法 等



https://id-info.jihs.go.jp/relevant/vaccine/measles/040/guideline03_20230516.pdf

医療関係者のためのワクチンガイドライン(第4版)

(一般社団法人 日本環境感染学会ワクチン委員会(令和6年11月))

- 【1】B型肝炎ワクチン
- 【2】麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘ワクチン
- 【3】インフルエンザワクチン
- 【4】髄膜炎菌ワクチン 等



http://www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/vaccine-guideline_04-2.pdf

その他

➤ 麻疹Q&A(医療機関での麻疹の対応について)

出典: 国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイトホームページ

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ma/measles/050/measles-qa05.html>

➤ 感染症発生動向調査(IDWR)

出典: 国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイトホームページ

<https://id-info.jihs.go.jp/relevant/vaccine/measles/060/measlesdoko.html>

➤ 神奈川県衛生研究所感染症情報センター

https://www.pref.kanagawa.jp/sys/eiken/003_center/03_center_main.htm